

紹介します！

MY INTRODUCTION

あなたの大切なもの、手作りの作品、お気に入りの写真や町の景色などを紹介します。



申込み 秘書広報課 ☎557-7497

● 田中 稔さんからの紹介 ●



成長した苗木

私は産業まつりでいただいた苗木を育てています。5年前に配布されたミカンは、翌年から実がなり始め、今年は50個も収穫できました(写真)。ブルーベリーも毎年たくさん収穫でき、生で実を食べたり、ジャムにして楽しめました。また、一昨年配布された金宝樹は6月にブラシの形をした赤い花が咲きました。これからも苗木の世話をしながら、季節を感じ、大切に育てていきたいと思っています。

● 参加者からの紹介 ●



花の植え替え

瑞穂斎場前の歩道にあるプランターをご存じですか。先日、ひまわり作業所とあゆみの通所者、一般障がい者約30名で花の植え替えを行いました。年3回の活動でだいぶ慣れてきました。今回は、パンジーやビオラを100個のプランターに植えました。散歩の折にも見てください。なお、毎週月曜日には、一般障がい者によるごみ拾いや道路清掃を行っています。興味のある方は、お問い合わせください。ひまわり作業所 ☎557-5145

生ける文化財

野生動物の種の保全についての、このごろの世論の動向は少しみるべきところがあるように思えます。しかし、同じ生物でも日本に昔から伝わる家畜・家禽の未来については、いまだに明るいものとはいえません。有用家畜として、日本人が何百年も人為的に淘汰を重ねてきた牛・馬・鶏等々の日本独自の在来種は、技術の進歩や外国種に押され飼養する人がなくなっていきました。これらの貴重な遺伝資源を未来の日本人に伝えようという運動に、私は50年も携わっていますが大した成果を上げ得ないことを恥ずかしく思っています。



この私たちの想いの強い

味方が、秋篠宮文仁殿下です。殿下は、このたび「日本の家畜・家禽 Gakken2009年3月刊」を上野動物園の小宮輝之園長と刊行されました。これらの在来種は人の手によって改良保存されてきましたので、われわれが手を抜けば絶滅する運命にあることは自然種以上です。ご近所に飼育されているチャボ(矮鶏)も、『天然記念物』に指定されている、かけがえのない遺伝資産であることを忘れないで欲しいと思います。



生ける文化財展にて小宮園長(右)

瑞穂町長 石塚幸右衛門